

【坂戸市消防団】

消防団員の確保について

- ・ 市主催の「坂戸よさこい」祭りの際、消防団の詰所を使用して消防団員募集活動を実施している。（消防団という組織をPRすることで消防団の認知度を上げることができる。）
- ・ ボールペン、ポケットティッシュ等の啓発物品を準備しアンケートに回答していただいた方に配布したりしている。（ボールペン等、常に携帯し使用してもらえものを配布し消防団を知ってもらうための啓蒙活動も併せて実施している）
- ・ 川口市消防団では成人式の日にはアンケートに答えていただいた成人の方に、肉まんを差し上げるというPRを実施していた。

女性消防団員の入団促進策

- ・ 女性消防団員の服装については、状況に合わせて活動がし易いようキュロットスカートのみではなく、ズボン（夏・冬）も支給し活動環境の整備をしている。
- ・ 財団法人埼玉県消防協会では、講師を招いての女性消防団員を対象とした研修を実施している。また、埼玉県消防協会第2ブロック連絡協議会（8支部、22団）でも女性消防団員研修を実施している。
- ・ 坂戸支部（坂戸市消防団、鶴ヶ島市消防団）事業として、女性消防団員による団員の子供さん（中学生以上）を対象とした普通救命講習を実施した。また、地域の防災リーダーである消防団員を対象とした普通救命講習を毎年実施している。

常備消防・自主防災組織等との連携

- ・ 自治会と消防団で合同訓練を実施している。消防本部は資機材の貸出手続き等を行うが、自治会との調整等については、すべて消防団にて計画し実施している。（区長等が消防団員に依頼に赴くことにより、地域を守る消防団を理解していただくとともに、消防団員の募集にも繋がる。）
- ・ 毎年、自治会から消防団員数名を選出し新入団員を確保している分団もある。（分団から自治会へお願いをしている。）

将来の消防団員等の地域防災を担う人材の育成

- ・ 坂戸市消防団では、保育園や幼稚園を対象とした女性消防団員による幼児教育を実施している。

地域住民への広報

- ・ 坂戸市消防団で、独自にホームページを開設し運営を行っている。
- ・ 消防団員自らが取材及び校正を行い、広報誌「水のひびき」を年2回発行している。広報誌は市の広報に折り込み全戸配布を実施し、消防団の活動を市民の方に理解してもらうよう広報活動を実施している。
- ・ 小学校の卒業式、入学式へ参列し、少年期から消防団を知ってもらうよう活動を行っている。



水のひびき

消防操法の意義と目的

消防操法は、消防団員が消火技術の向上並びに初期消火のため必要な技術を身に付け、いかなる状況下においても、迅速、確実、かつ安全に行動できるように、主要な消防用機械器具の操作及び取扱いの基本を定めたものです。



第26回坂戸市消防団 消防操法大会

日時:平成22年7月25日(日)

7:30開会

会場:川崎陸送株式会社 坂戸流通センター

坂戸市にっさい花みず木1-4-2

最寄りの交通機関:坂戸市内循環バス西コース

「サン・ビレッジさかど」下車徒歩2分

消防団員は定職を持つかわらで、就業前の早朝、または就業後に自主的に集まり、消火技術向上のため日頃より訓練をしています。その成果を試す機会が、消防操法大会です。

地域の皆様にいただく暖かいお言葉が団員の原動力になります。訓練する消防団員を見かけたら、是非ご声援下さいますようお願いいたします。



栗原団長より辞令を受ける新入団員

辞令交付式

平成二十二年四月四日(日)に勝呂公民館において、平成二十二年度坂戸市消防団辞令交付式が行われました。

当日は、栗原団長より新入団員十四名を代表して坂戸分団第2部の高橋永次さんが辞令を受けました。それぞれの団員が消防団員としての第一歩を踏み出し、これからの活躍が期待されます。

入西分団第3部団員(団員歴八年) 三田 恒次さん
飯能信用金庫新狭山支店勤務
川越育ちの三田さんは縁あって坂戸市に転入してきました。そして、地域に早く馴染むために消防団への入団を自ら選んだそうです。
入団時は、仕事や家族と一緒にいる時間に制約ができるのではないかと不安を抱いていたのですが、多少の制約はできても、家族と一緒にいる時間はかえって内容の濃いものになったと、にこやかに話します。
その姿は三人の子供を持つ三十八

歳の普通のお父さん。
入団して良かったことは?との問いには《仲間》が増えたことと即答した。消防団での活動や仲間との交流の中で、自らの話の幅も広がり、それが仕事でもいきていくという。「サラリーマンだから(団活動は)できない」と決めつけず、一歩踏み出せば新たな経験ができる」と語る言葉には、団活動で多くの経験を得られたからこそその自負が感じられた。
職場では支店長代理。楽な立場ではない。それでも「(団活動と両立できる)と言う発言には坂戸市への愛着が感じられた。」


坂戸を守る消防団の紹介
坂戸市消防団大家分団第2部

第二回目の発行となり、今回ご紹介するのは、坂戸市消防団大家分団第2部です。

坂戸市と日高市の境に詰所があり、年齢は二十代から四十代で構成されており、ほとんどの団員がサービス業に就いています。

取材当日、詰所に着くと一人ほうきを持ち掃除をしている団員がいました。後に掃除をしていた団員は浅見部長であることが分かり、案内され中に入るとよく整理整頓された大変美しい詰所に驚きました。

浅見部長に話を伺うと、私達



のアピールポイントは「役職に関係なく団員同士の仲がとても良いことです。」と話していました。

部長だから掃除をやらない。後輩だから掃除をするということはないと言います。また、休みの日は消防団の行事に関係なく仲の良い団員同士で食事に行ったり、バイクのツーリングに行くそうです。また、地元地域のお祭りに消防団として参加したりと、自主的に活動を行っており、地元地域との関わりを大切にしています。

新入団員の確保が難しい中、団員十名（欠員三名）で地元地域の安全のために消防団活動をしています。

坂戸市消防団HP開設

坂戸市消防団では3月18日にホームページを開設・公開いたしました。

消防団の活動情報を定期更新いたしますのでご期待下さい。

<http://sakado-hikesi.jp/>



多機能部隊 辞令交付式



多機能部隊の辞令交付式が、それぞれ五月二十三日、六月三日に行われました。

多機能部隊の新隊長には菅原龍

雄団員が任命され、ラッパ

隊長は市村豊

団員から福田

真人団員にそ

の任が引き継



坂戸の未来を守るのはあなたです！



坂戸市消防団ではふるさとを守る消防団員を募集しております
資格：坂戸市内在住・在勤の18歳～45歳未満の方
お問い合わせ：消防本部庶務課（☎ 281-3118 内線234）

「水のひびき」に託す思い

火災を鎮めるのは水である。その水も台風や大雨で浸水や洪水を引き起こす。消防団は、ときに水防団となり、猛り狂う炎や荒れ狂う水から我が愛すべきふるさと「坂戸」を守り抜く。

炎や水との壮絶な戦いを見事、鎮火・鎮圧させて引き返す。『カンカン』と街中に響く鐘の音。大きな任務を遂行し、疲れ切った中にも安堵と誇らしげな表情に団員たちの強い責任感と使命感が垣間見える。「水のひびき」は引き上げの鐘の音とともにある団員たちの真剣な眼差しと穏やかな笑顔の象徴に他ならない。



「水のひびき」創刊号

編集後記

二回目の広報「水のひびき」はいかがでしたか？
地域の皆様に少しでも消防団活動の内容を知って頂き、理解して頂けると嬉しい
です。

次号もより良い「水のひびき」をお届けできるように頑張ります。

広報委員会一同





水のひびき

平成22年度全国統一防火標語

「消したかな」 あなたを守る 合言葉

秋も深まりを見せてくる頃になると、ストーブなどの暖が恋しくなってきます。それはまた、火災シーズンの到来をも意味します。消防団では、車両の整備・点検、放水試験を行い火災シーズンに備えます。さらには、夜警などを通して火災期への注意を喚起し、火気取り扱いの留意事項を地元を発信しています。



車両特別整備



車両点検



放水試験



秋の全国火災予防運動夜警

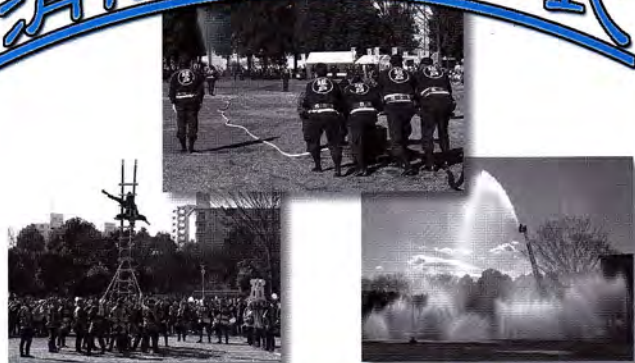


分列行進



火災予防街頭キャンペーン

消防出初め式



出初め式の由来

1659年（万治2年）に時の老中稲葉伊代守正則が定火消し総勢4隊を率いて上野東照宮前で1月4日に氣勢を上げた事が由来とされており、現在各地の消防機関で伝統行事として行われております。

日時：平成23年1月9日（日）9：05開式
場所：千代田公園〔坂戸市千代田5-2〕
東武東上線若葉駅東口下車徒歩10分

入団して十年。東坂戸地区からの初めての団員である。だれもが子どものころにここがれた『消防車』と『電車』、両方の運転を自在にこなす。職業は、西武鉄道に勤務する入社十二年目、現役バリバリの電車の運転士さんだ。責任感が強く仕事はもちろん、消防団においても専任班長として部長を助け、若手の多い第一



三芳野分団第1部
班長（団員歴十年）
山村 晋一さん
西武鉄道勤務
電車運転士

部をぐいぐいと引っ張り、リーダーシップを発揮する。奥様と三人のお子さんに「気をつけて」と見送られ、「故郷坂戸を災害から守る消防団の使命」に誇りと責任を持っている。仕事から休みが不規則なため、勤務をやりくりするのが大変と言うが、ラッパ隊もかけ持ちして頑張る。ギリギリリッ。掛けた六つの目覚ましが一斉に鳴る。『出発進行』やがて電車は、さわやかな声とともに滑るようにホームから動き出した。



坂戸を守る消防団の紹介
坂戸市消防団勝呂分団第1部

今回取材で訪れたのは、坂戸市消防団勝呂分団第1部です。勝呂の石井地区の安全と安心を守るために、吉川部長をはじめ団員十三名で日々活動を行っています。

団員の年齢層は最年長が四十歳、最年少が二十六歳で、団員の職種は会社員、郵便局員、自営業と様々な仕事に就いています。

勝呂分団第1部のアピールポイントを伺うと「団員同士がとても仲良く、団結力があることです」と部長をはじめ団員一同口をそろえます。

また、消防団の活動に関係なく消防団OBをまじえて食事に行ったり、バーベキューを行っ



たり、地元小学校で行われる市民体

育祭に参加するなど、地域との関わり合いも大切にしています。

消防団活動を行う上で苦労していることは、サラリーマンが多いので、平日の日に起こる火災・災害等、有事への対応が難しいことや、他の消防団と同じく新入団員の確保が難しいことだと表情を曇らせます。

最後に、「地元地域の期待に応えられるよう、これからも団員一同力を合わせて、頑張って活動していきたい」と語っていました。

最後に、「地元地域の期待に応えられるよう、これからも団員一同力を合わせて、頑張って活動していきたい」と語っていました。



個性派集団をまとめる吉川部長

住宅用火災警報器の取り付け協力します

お問い合わせ先は
坂戸・鶴ヶ島消防本部
予防課予防担当
〇四九二八二一三二七



対象は住宅用火災警報器を購入済みの障害者および六十五歳以上の単身もしくは二人世帯で警報器を購入しても設置できない世帯になります。

消防団では、消防署と協力して、住宅用火災警報器の訪問設置活動を行っています。

勝呂分団第3部の団員達が、消火器の使い方を一人ひとりに熱心に指導していました。



**勝呂分団第3部
地元地域の防災訓練に参加**

過日、勝呂管内の栄地区防災会主催で防災訓練が行われました。

当日は、一般参加者が訓練用の消火器を使って消火訓練を行いました。

※おとうさんといっしょ!

勝呂分団第2部

馬場正寿団員

壱太くん
仁太くん
千尋ちゃん



三芳野分団第2部

小島宣靖団員

雅美夫人
夕芽ちゃん
幹太朗くん
潤之助くん
伸之助くん



編集後記

勝呂分団第1部の取材をしていると「ご苦労様です」とスーツ姿の男性が敬礼をしてくれました。その男性は勝呂の駐在さんでした。地域防災の要と地域防犯の要が言葉を交わす姿は、勝呂地区が安全で安心な地域であることを象徴するいち場面でした。

さらに、一人ひとりが防災・防犯への意識を高めれば、さらに安全で安心な地域をつくり上げることができそうです。
ご協力よろしくお願いします。

来たれ!!消防団



坂戸市消防団ではふるさとの安全を守る消防団員を募集しています

資格：坂戸市内在住・在勤の18歳～45歳未満の方

お問い合わせ：坂戸・鶴ヶ島消防本部庶務課

(☎ 281-3118 内線234)



水のひびき

東北地方太平洋沖地震で被災された皆様方に心からお見舞い申し上げ、一日も早い復興をお祈りいたします。

忘れられない日・・・

坂戸市消防団長 栗原 初夫



3・11 経験の無い揺れを体験しました。その時は車を運転中で、ラジオから次々入る情報が尋常ではないことに動揺しました。坂戸市では、震度5弱と知り、川越から坂戸に入り被害状況を見ながら市内を巡回し一旦自宅に戻り、その後消防本部に入り、余震対策に当たりました。

消防長からの報告で、緊急消防援助隊埼玉県隊として当組合からも岩手県陸前高田市に職員を派遣したとのこと、安全と活躍を祈りました。

各分団とも坂戸市防災計画に基づき管内の警戒と被害状況を調査

震災が教えてくれたこと

入西分団長 根本 裕二



地震発生当時、職場にて仕事中でした。とても長い揺れが収まり、すぐに家に電話をすると、自宅の屋根瓦は落ちたが、家族全員の無事が確認できました。仕事を終え急いで帰宅し、落ちた瓦を横目に話所へ向かい、すでに待機していた二人と巡回および警戒に出動しました。墓地で倒れている燈籠や屋根瓦が落ちていて、多数の家屋を目的に当たりし、仮に震源地が坂戸市近郊なら被害が多数発生したと容易に予測できました。もし、そうなれば、その中で活動するのは、まぎれもなく市民の皆様とわれわれ消防団です。これからも地域との連携を強化し、災害に強い街づくりに取り組んでいきたいと思っています。

し、翌日にもそれぞれ分団独自の調査を行い報告書作成、後日幹部教養研修に於いて活動報告会を行いました。

震災から5ヶ月、岩手、宮城、福島3県で殉職された、警察官30名、消防職員27名、そして、消防団員249名、極めて、悲しい事実、痛恨の極みであります。志操堅固の団員の活躍で数えきれない程の多くの住民が助かった事を、私達は忘れることは無いでしょう。われわれ坂戸市消防団員は、今回の大震災で、郷土愛護の精神で未だ活動されている被災地の団員の皆様に最大の敬意と感謝を申し上げますと共にこれからも起こるであろう震災に、備えを万全にして参る所存です。

幹部教養研修

去る五月二十九日(日)消防本部会議室に於いて、埼玉県消防協会坂戸支部幹部教養研修が開催されました。

当日は、東日本大震災の犠牲者に対しての黙祷から始まり、坂戸・鶴ヶ島消防組合から緊急消防援助隊埼玉県隊として現地に任務にあたられた隊員のお二人を講師に迎え、スライドを交えて現地での活動を詳細にご報告いただきました。



続いて震災発生時の分団・部の活動報告を中心とした意見発表が行われました。

越辺川・高麗川水害予防組合水防訓練



平成 23 年 6 月 11 日(土) 越生町中央公民館に於いて、越辺川・高麗川水害予防組合水防訓練が開催されました。

消防団は、水害時には水防団として活動を行ないます。出水期を迎えるこの時期、市民の安全・安心・財産を守るために様々な水防工法を身につけ、有事に備えています。



当日は西入間広域消防組合の職員の指導を仰ぎ、基本的なロープ結索(ロープを他の物に結び付けたり、ロープとロープを結び合わせたりする)訓練と木流し(河川の流れによって、堤防が削られるのを防ぐために、木に土のうの重しをつけて川の中に投げ込む)工法の実技訓練を行いました。



当日は西入間広域消防組合の職員の指導を仰ぎ、基本的なロープ結索(ロープを他の物に結び付けたり、ロープとロープを結び合わせたりする)訓練と木流し(河川の流れによって、堤防が削られるのを防ぐために、木に土のうの重しをつけて川の中に投げ込む)工法の実技訓練を行いました。

勝呂分団第3部(団員歴九年)

馬橋 隆さん



乳類卸若葉販売店勤務

乳類の卸・配送業を営む

馬橋さんは勝呂分団第3部の班長として、また、二人のお子さんの父親として日々仕事に、消防団活動に汗を流しています。消防団に入団したのは、地元の先輩に声を掛けてもらったのがきっかけだったそうです。仕事

朝早く始まり、夜の警戒がある時はとても大変ですが、かけがえない同じ部の仲間が存在や、消防団活動を通じて知り合った地元の方々の存在が励みになり、活力となっているそうです。

人の生命や財産を守る消防団員として誇りを持つと共に、班長として周りの団員が活動しやすい環境を整える事を第一にこれからも活動していきたいという言葉から優しさを感じました。



坂戸を守る消防団の紹介 三芳野分団第3部

5年前に改築された車庫・詰所。周囲はきれいに整理され、入口（玄関口）には、履物が丁寧に並べられている。中程まで階段を上っていくと、2階の詰所から談笑する部員たちの明るい声が聞こえてきた。

三芳野分団第3部。勝呂地区や川島町と隣接する小沼、青木地域を活動の本拠地とし、三芳野地区の守りを中心に、安全・安心のまちづくりの一翼を担っている。

今宵は7月の第一土曜日。第三土曜とともに定例の夜警巡回・車両整備の日である。

いざ詰所に入ると一見厳つい男たちが十一人。一斉にこちらに鋭い視線を投げ掛けてきた。

←2班整列
結 規 律 士 気



車庫の清掃→
力を合わせて



1班夜警巡回終了、お疲れ様！

と思っただけすぐに柔和な表情に。『互いに思いやり、尊重し合える大人の集団であることが、第3部の最大の特長』と、静部長が言くと、男たちはそれぞれに大きくうなずいた。そして、数多くの地元の『先輩方や後輩達と出会えたこと』が何よりの財産であると、皆口々に語る。

地域の防災訓練や地区体育祭、子ども会行事等への参加、地元から依頼される『小枝切り』作業などまさにその活動・活躍は地元地域に根ざしたものである。午後9時。本日2回目の夜警巡回の時刻。今度は第2班の出番だ。消防車両に乗り込んだ丁度その時、『遅れてごめん』の声。会社の残業で遅れていた二人も加わり全員がそろったの出動に再びみんな笑顔になった。

多機能部隊資機材 取扱い訓練

去る七月三日（日）坂戸消防署東分署訓練場に於いて、坂戸市消防団多機能部隊資機材取扱い訓練が実施されました。

当日は、気温が三十度を超える真夏日となり、過酷な気象条件の中での訓練となりましたが、隊員は積載された多種多様な機材を用いて、車中に閉じこめられた人形を安全かつ確実に救助する実践的な訓練を行いました。



そこには、市民の安全のために活動の場を広げる、新しい坂戸市消防団の形がありました。

〔多機能部隊〕

日本消防協会が平成十九・二十年度事業として、都道府県内の消防団に「消防団多機能型車両」の交付配備を行った。本県においては、これまでの災害等の活動実績が認められ、唯一、坂戸市消防団に交付された。

これを機に当消防団では「多機能部隊」を発足させ、現在、四年目を迎えている。隊員は、長期の消防団活動経験者・熟達者を招集し、組織・編成している。

多機能型車両は、消防車両としての装備の他に、多種多様な災害に対し、救命器具のAEDや救助機員のエンジンカッター等も搭載している。



※おとうさんといっしょ！

坂戸分団第2部

宮崎 恭行団員
香織婦人
大樹くん



大家分団第2部

浅見 三津夫部長
亜紀子婦人
愛香ちゃん



いまこそ
あなたの出番です

坂戸市消防団ではふるさとの安全を守る消防団員を募集しています

資格：坂戸市内在住・在勤の18歳～45歳未満の方

お問い合わせ：坂戸・鶴ヶ島 消防本部庶務課

(☎281-3118 内線234)

編集後記

3・11。国難ともいえるこの度の震災。被災された方々、殉職された方々を思うとき、改めて消防団員としての使命と責任の重さを実感しました。

われらは坂戸市消防団。今、決意新たに。

わがまちは

何としても わが手で守る。

この決意の言葉を持って編集後記といたします。





まずは自分の家族から（団員のお子さんにも救命講習を指導する女性団員）



女性消防団員による幼児教育



火災予防運動期間中の広報活動



坂戸よさこい祭における募集活動



団員募集時に配布する啓発物品